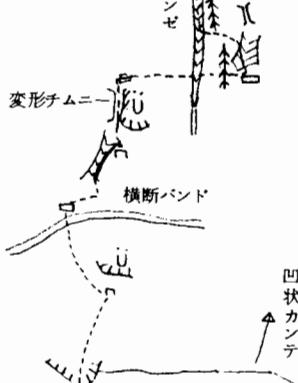


蘭信夫、田中隆



No. 1807

一の倉沢四ルンゼ

79年6月16日（快晴）

（まえがき）本来ならば、烏帽子奥壁の凹状ルートが我々の予定していたルートであつた。しかし、先行パーティーが多數取付いており、時間的な面、そして何よりも落石に対する危ぐから、ルートを三ルンゼに変更した。

四ルンゼの各滝は厚い雪渓におおわれ、その通過は思いの外、楽なものとなつた。ルンゼの影が浅くなり、ゴーロ状をなしきた。登はん終了は間近い。だが、四ルンゼのどんづまりでは巨大なブロックなどれが形成されつつあつた。その時、我々は通称ノドと呼ばれる場所にいた。このノドの通過があと十数分おそければ、我々は四ルンゼに散つただろう。

この時期のルンゼ登はんは、ブロックに対し充分な注意を払う必要がある。

（編成）L竹林金一郎、中島三夫、外

（外蘭信夫記）